

ぶんぶん個展

PUN COUNTER

100,000

ぶんぶん個展、大増強となりました。新展示品もあります。既存展示品も一部手直し、精密画面で見られます。
ぶんぶん回顧展にも新展示品あります。そうです、またまた感動、間違いなしです。

個展、精密画面数増やしました。修正も減らし、極力原画に近い画面にしています。

緊急連絡:ぶんぶん掲示板はスパム投稿多く、閉鎖いたしました。新掲示板作成まで
SANDY Home Pageのぶんぶん緊急特別掲示板をご利用ください。

Home

ぶんぶん作品集です。

好きなものを描いたつもりが、ほとんどF-1でした。

推薦の言葉 まんたん

ぶんぶんは学校の美術部に所属し、お絵描きをしていました。顧問の先生から、若大に進むように罵められ、絵の才能を評価されたが、と大いに気をよくしました。

けれども先生は「美術史がいろいろ言うのでした。がっくりしたぶんぶんは油絵ではなく、油屋をすることになりました。

でも今でも絵は好きなのです。

ぶんぶん個展 拡大作品集リス

絵をクリックするとリスト画面に行けます

総力展です。画面処理を全て施し、きれいな画が見られます。



回顧展イラスト集

回顧展からイラスト集だけ独立しました。回顧展の新作? 大学、展示です。

ぶんぶん回顧展



ぶんぶん個展 イラスト展

ナウシカ展はイラスト展として独立展示となりました。画面をクリックしてください。



ぶんぶん個展新展示作品

拡大作品集からもアクセスできます



F-1スケッチ集

新企画。絵をクリックしてください



回顧展新展示作品



ぶんぶん個展 ナウシカ展 期間限定特別掲載

【解説】

ナウシカ展と呼んでいますが、描かれているのはナウシカではありません。実ははっきりしてはいないのですが、クシャナという人物でないかと思います。

周りにいるのは蟲使いと呼ばれるいわば軍需員です。軍需調達は自分の全財産をくっ付けており、画ではわかりませんが、宝石類は付けられています。

【ひとこと】

サインペンに色鉛筆で色を重ねています。面倒なのでデッサンなしに直接、サインペンで書いていったので修正なしです。原画に対し、少しデッサンがずれていますが、適当にごまかしてしまいました。

色を塗るのは本当に苦労しました。色を塗る前まではそれこそ2~3時間でできましたが、完成するのに2~3ヶ月要しました。



Home

回顧展、イラスト集！こんなにあったの？という驚きの作品集です。30～35年前に記憶は遡ります。

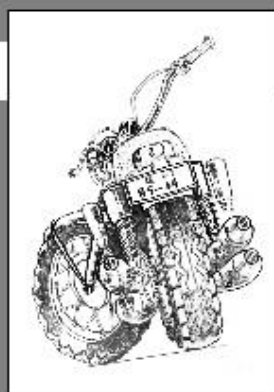
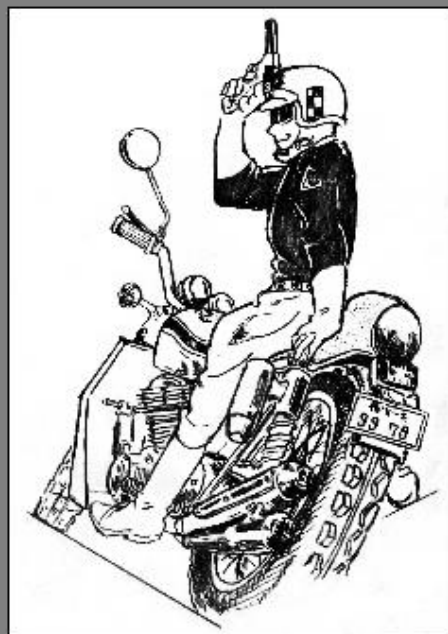
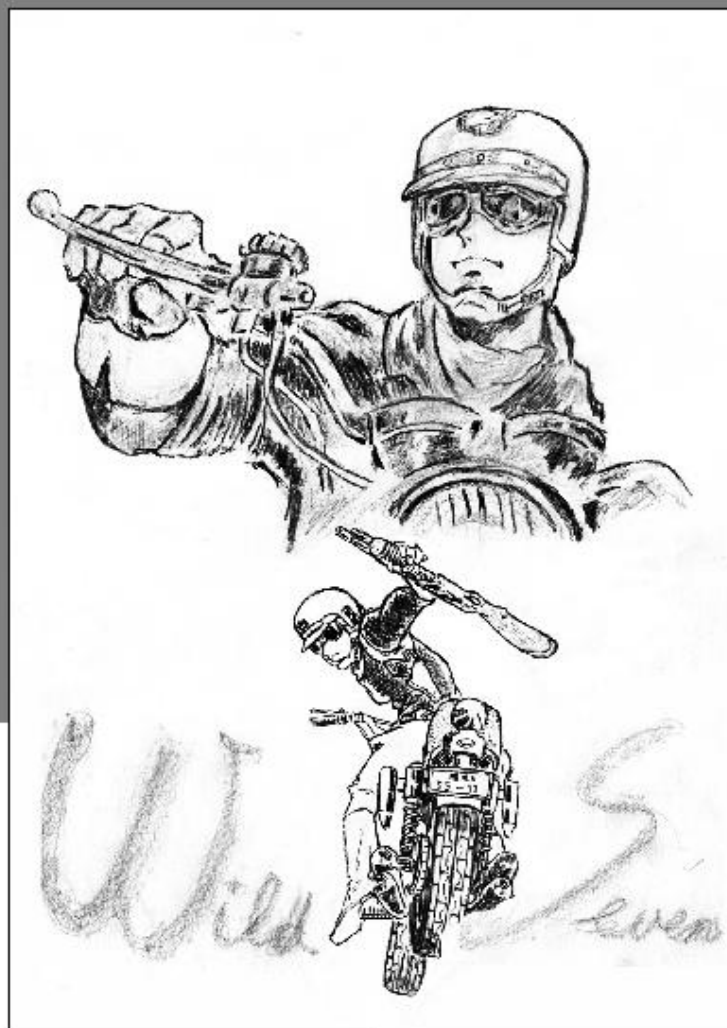
高校時代に描いた当時人気のワイルド7です。雑誌社に投稿しようとしてそのまま埋もれてしまった作品です。



回顧展イラスト集は5ページあります。

- ☐ Wild 7特集-1
- ☐ Wild 7特集-2
- ☐ Wild 7特集-3
- ☐ 回顧展イラスト雑品集-1



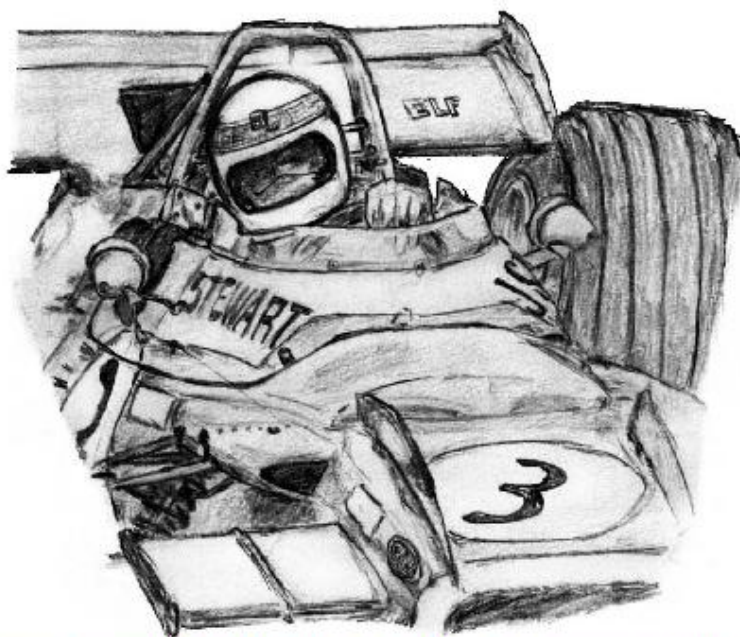




回顧展の総力集。いろんな展示作品出てきます。画面も全てクリーン処理をし、きれいな画となっています。そう、復活回顧展です。

回顧展は8ページあります。

- ☐ 回顧展-1
- ☐ 回顧展-2
- ☐ 回顧展-3
- ☐ 回顧展-4
- ☐ 回顧展-5
- ☐ 回顧展-6
- ☐ 回顧展-7
- ☐ 回顧展-8



Matra Ford MS80 / Jackie Stewart (1969)

マトラはフランスのメーカーですが、ミサイル製造で有名です。レーサーのジャッキー・スチュワートはこの年、チャンピオンとなりました。エンジンはフォード。マトラ自社製のエンジンでも参戦していましたが、そちらはあまり活躍できませんでした。

マトラ・フォードを率いたのはケン・ティレル。後、独立し、スチュワートと共にチャンピオンチームにもなっています。

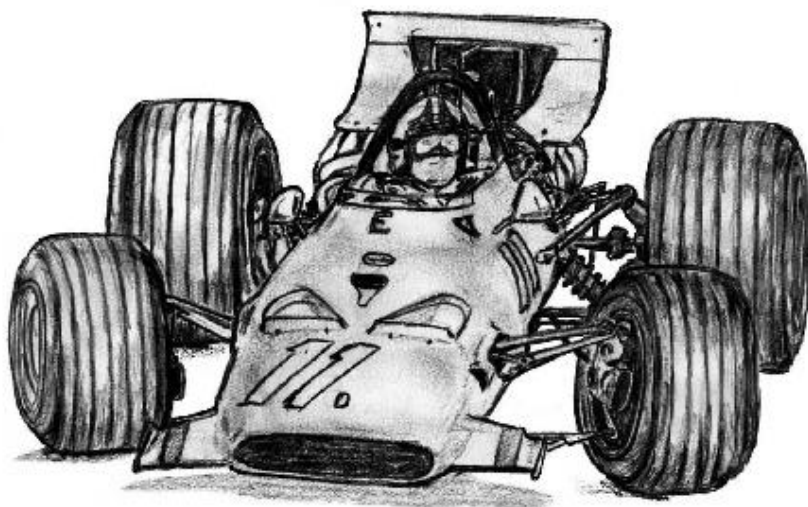
ジョセフ・シフェールが操るプライベートチームのロータスフォード。チーム名はロブ・ウォーカー。

シフェールは当時、日本ではジョー・シファートと呼ばれ、耐久レースでのポルシェのドライバーで有名で、そのポルシェで日本GP(F-1ではありません)に参戦しています。



Lotus Ford 49B / Joseph Siffert (1969)

Ferrari 312 / Chris Amon (1969)

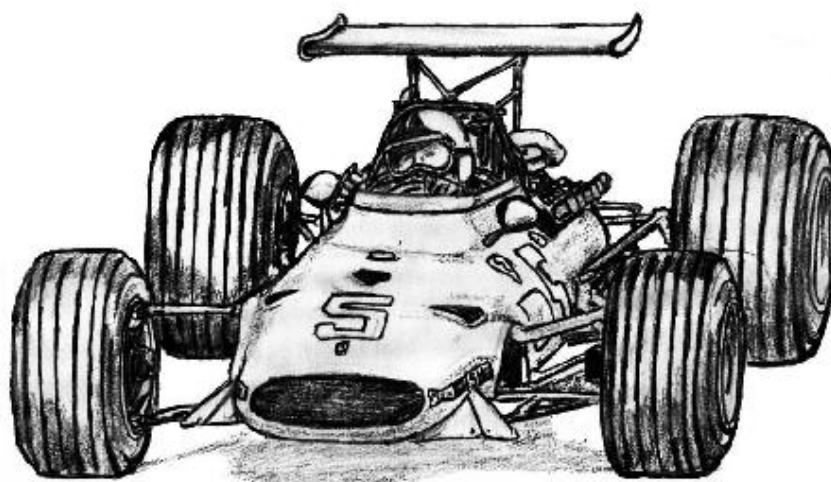


1969年のフェラーリ312は、今でも格好しいと思います。10年ほど前に再度、描いてみようと思ったのですが、描けませんでした。格好しい、という強い気持ちが薄れたせいかもしれません。

なお、1968年から大流行した高いウイングは1969年の初めに禁止され、画のようなウイングかどうか、わからない形状のものが出てきた頃です。

ドライバーのクリス・エイモンは強いドライバーだったのですが、結局、優勝することのできなかったF-1レーサーでした。

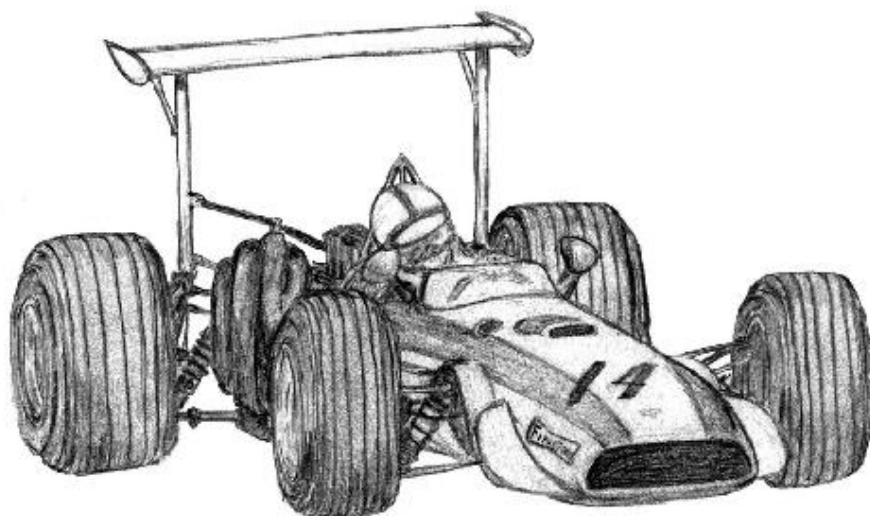
Ferrari 312 / Chris Amon (1968)



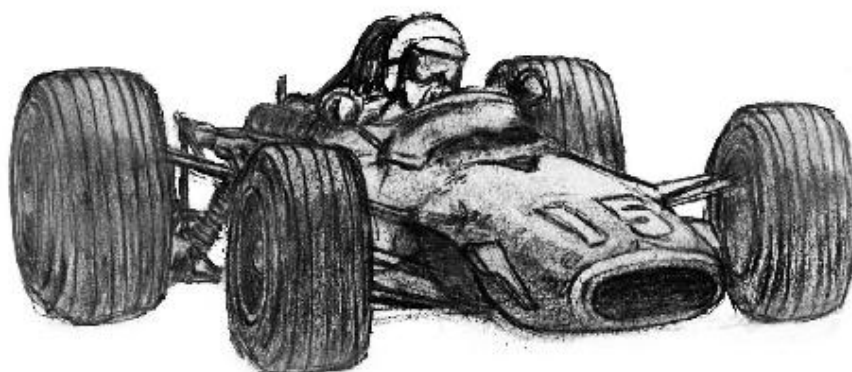
フェラーリのF-1の名称312はエンジン排気量3リッター、V12気筒エンジンから来ています。

したがって年式が変更されても312と呼称されることとなります。

Honda RA301 / John Surtees (1968)



BRM P126 / Piers Courage (1968)



CAN-AM

CAN-AMは1966年より開始された排気量無制限、2座席レーシングスポーツカーレースです。トヨタ、ニッサンも参加準備をしていましたが、オイルショックにより中止となりました。
CAN-AMは一時、大いに人気を博し、F-1レーサーも多く参加しています。



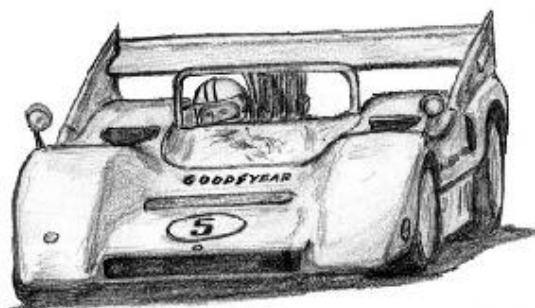
BRM P154



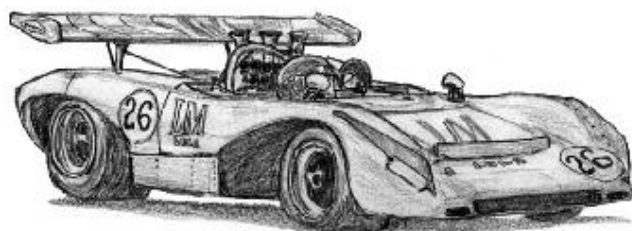
CHAPARRAL 2J



AUTO COAST Ti22



McLAREN M8D



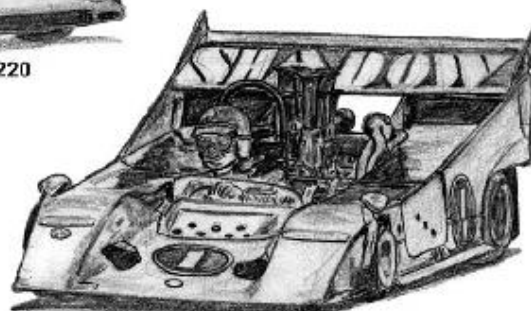
LOLA T220



McLEAGLE M6B



McLAREN M8B



AVS SHADOW

PORSHE



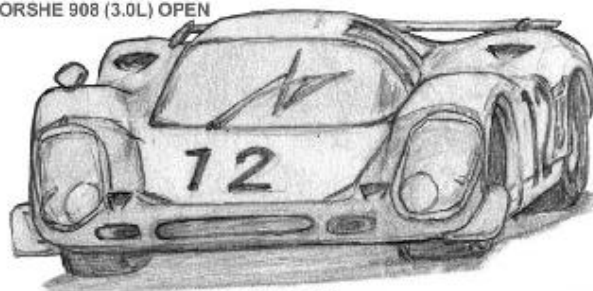
PORSHE 907 (2.2L) COUPE LONG TAIL



PORSHE 908 (3.0L) OPEN



PORSHE 907 (2.2L) COUPE SHORT TAIL



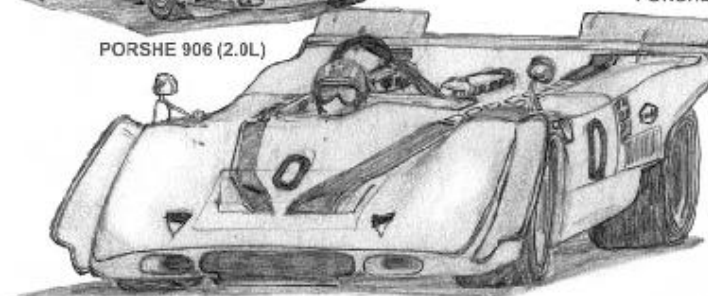
PORSHE 917 (4.5L)



PORSHE 906 (2.0L)



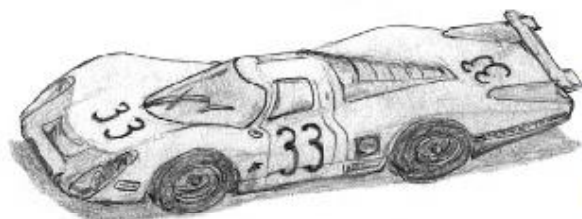
PORSHE 910 (2.0L)



PORSHE 917PA (4.5L)



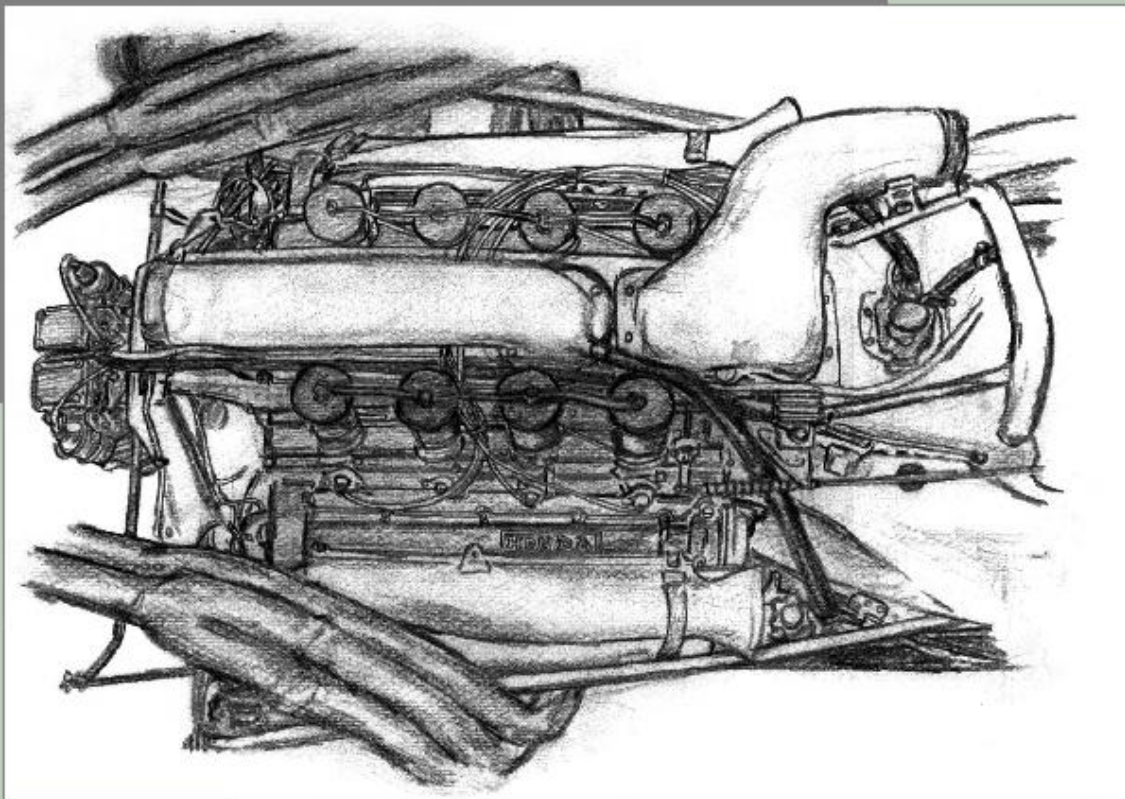
PORSHE 908 (3.0L) COUPE SHORT TAIL



PORSHE 908 (3.0L) COUPE LONG TAIL

今でも有名なPorsche。F-1と並ぶほど人気のあった耐久レース用に開発されたマシン達です。
ルマン24時間は今以上に活気がありました。
Porsche 917PAはCAN AM用に改造されたマシンです。

HONDA RA302

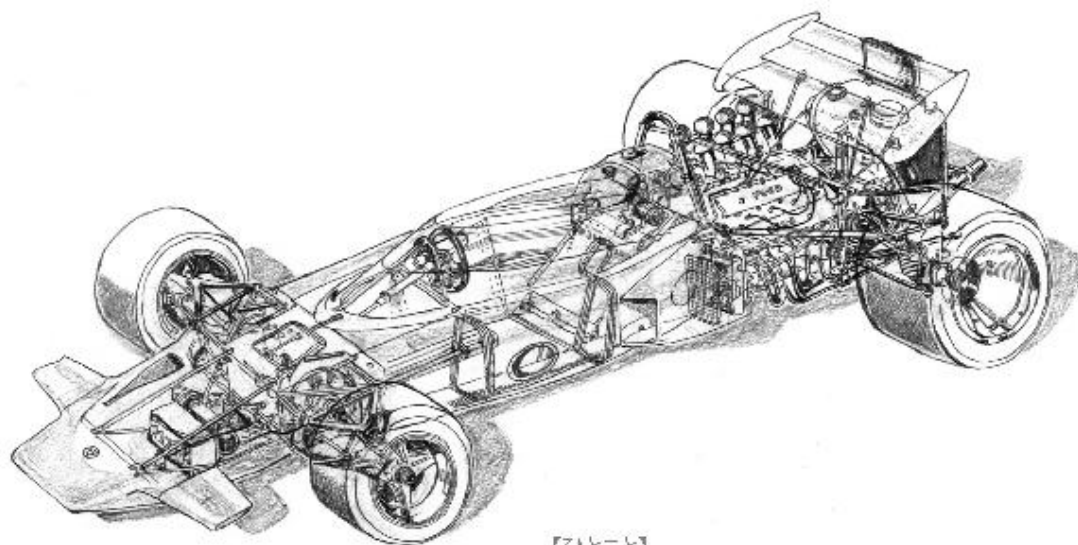


エンジンのみですが、悲劇のマシン、Honda RA 302の空冷V8です。Hondaが市販車でも空冷にこだわった頃のもので。まともに走らないことを知りながら、レースへの参加となりました。

そのせいではありませんが、フランス人レーサー、ジョー・シュレッサーはレース中の事故で還らぬ人となりました。Honda唯一の死亡事故です。

Hondaはターボ時代、最強のマシン、最強のレーサーで16戦中、15戦に優勝したことがありますが、その唯一敗戦となったのはセナが周回遅れの車と接触したことによるものです。そのレーサーの名はシュレッサー、甥です。

LOTUS 72 (1970)



【ひとこと】

透視画です。当時、車だけでよく、透視画が本に載っていました。必死になって見ながら、画いた記憶があります。秘密だらけのF-1マシンの透視画が画けるといのは不思議な気がしますが、当時は結構、オープンだったのかもしれません。

チーム・ロータスがF-1に送り込んだマシンで三大名機は49、72、79と考えています。ロータス72はF-1で初めての楔形(ウェッジタイプ)のマシンであり、サイドラジエーターを設置することで可能となっています。

72は5年もの長い間、レースに登場し、最終的にはEスペックとなりました。5年の間に2度のチャンピオン、3度のコンストラクターズ・チャンピオンを獲得しています。

画いているマシンは初年度のマシン、ヨッヘン・リントは49B、72をこの年、乗り、チャンピオンとなりましたが、レース中の事故で亡くなっており、チャンピオンになったことは知ることができませんでした。

スポンサーはタバコ会社で赤に金色のゴールド・リーフのブランドカラーでした。後年、同じ会社ですが別ブランドのJPSカラーとなりました。有名な黒いロータスが誕生しました。



こんなのも書いていました、というものです。

車のパンフレットにあった室内のダッシュボードです。ロータリーエンジンが脚光を浴び始めたころでコスモスポーツもファミリアロータリークーペも黒一色の室内は格好いい、と思ったものです。

こんな画を描いてどこが面白いのか、と今だったら思いますが、子供心に格好いい、だけで描きたいという気持ちになり、その気持ちでこんな黒一色でも満足していた、との記憶です。



Ferrari 412T2 / Eddie Irvine (1996)



April 4, 1996 Shoji Aonuma

スケッチ風に描いた作品集。完成に1時間もかけていません。時間をかけないのではなく、かける気がない、という感じかもしれません。

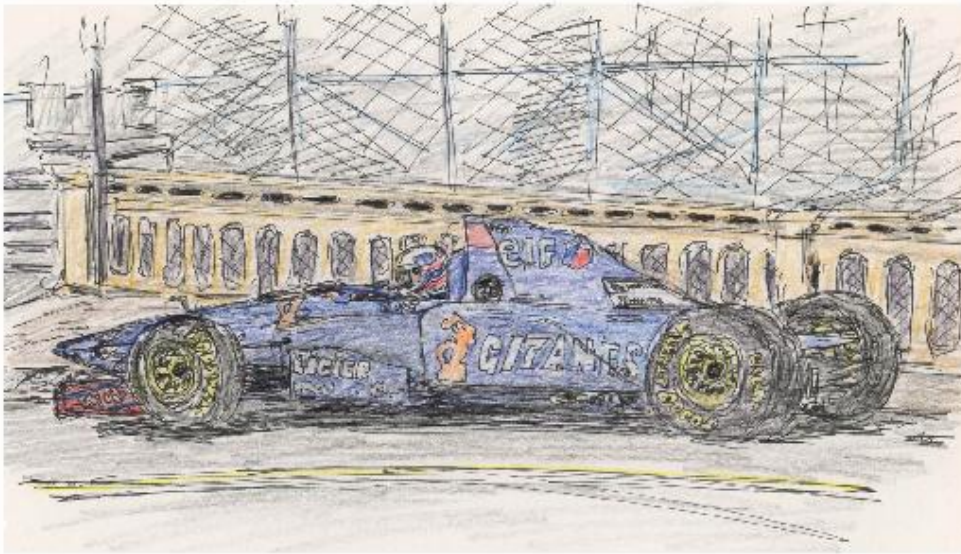
有名な画家が年齢を重ねると段々と抽象的になるのと同じ？

McLaren MP4/11 / David Coulthard (1996)

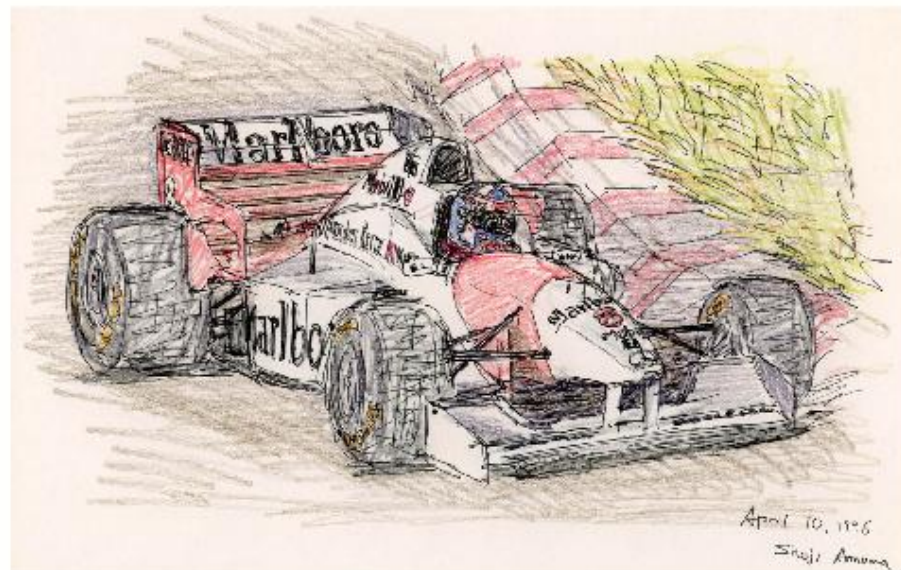


April 6, 1996 Shoji Aonuma

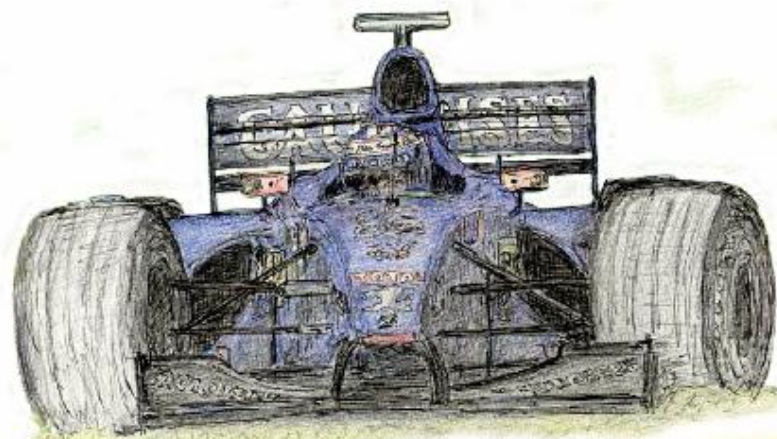
Ligier JS43 / Olivier Panis (1996)



McLaren MP4/11 / David Coulthard (1996)



Ligier JS43 / Pedro Diniz (1996)



21 March 1999
Shuji Arima

ぷんぷん個展拡大作品集

ぷんぷん個展表紙に戻る

Back Next

次の作品は大画面で見られます。画面をクリックしてください。

Benetton Ford B192



Benetton Ford B188



Ferrari 312T4



Ferrari 156/85



March Judd 881



Williams Judd FW12



Williams Honda FW11B



Lotus Honda 99T



次の作品は大画面で見られます。
画面をクリックしてください。

BRM P153



March 771



F-1の中の静寂



F-1の静寂



Honda RA301



←今回の新展示品

Porsche 962



今回の新展示品です。大画面で見られます。画面をクリックしてください。

Toyota Celica

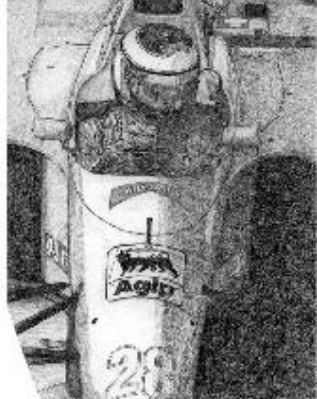


Nissan R88C



この作品は大画面で見られます。

Ferrari F93A



展示作品集です。画面をクリックしてください。

Ayrton Senna



Ayrton Senna



Williams FW09B



McLaren MP4/2



Alain Prost



Benetton B188



Lotus 96T



Ferrari 156



Benetton Ford B192 / Michael Shumacher (1992)



【ひとこと】

シューマッハーはあまり好きでないのですが、黄色の着色が一番、画としては映えるの結構、この画は気に入っています。

ドライバー、ミハエル・シューマッハー。言うまでもなく、最強のレーサーです。ベネトン時代のシューマッハーは強いというより、勢いがあったという感じがします。エンジンもフォード、最強ではなかったはずですが、その勢いが最強のマシンにしていたという感じがします。

フェラーリの赤よりもこのベネトン、特にこの時代のキャメルカラーの黄色が軽やかに見え、華やかな感じがします。

Benetton Ford B188 / Johnny Dumfries (1988)



【ひとこと】

赤、緑、黄の3色のベネトンカラー。マシンも格好いいし、そこに3色を乗せるとますます、格好よく見えます。

今、見るとエアークレックは不利なはずですが、全体的なデザインは格好いいです。デザイナーはロリー・バーン。今はフェラーリ復活時のデザイナーです。彼は一度、引退をして趣味のスキューバダイビングのためにタイで暮らしていたことがあります。

ドライバーはジョニー・ダウンプリーズ。テスト走行のシーンです。すなわち彼はテストドライバーでした。

Ferrari 312T4 / Gilles Villeneuve (1979)



Ferrari 156/85 / Michele Alboreto (1985)



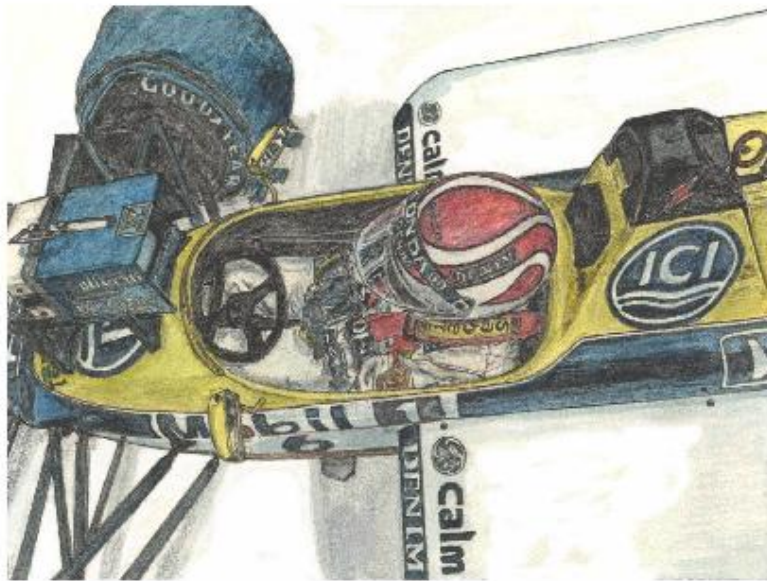
March Judd 881 / Mauricio Gugelmin



Williams Judd FW12 / Nigel Mansell (1988)



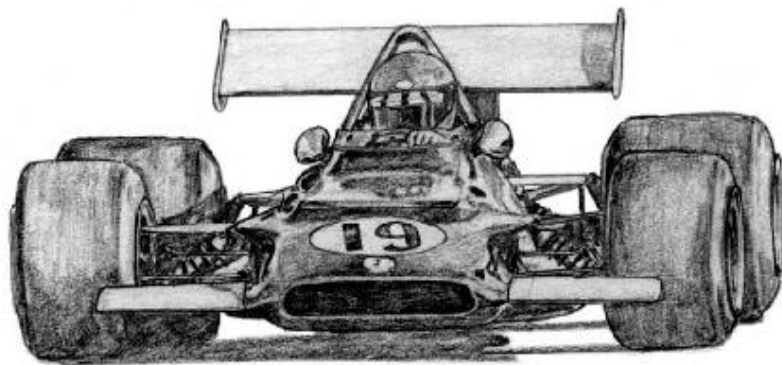
Williams Honda FW11B / Nelson Piquet (1987)



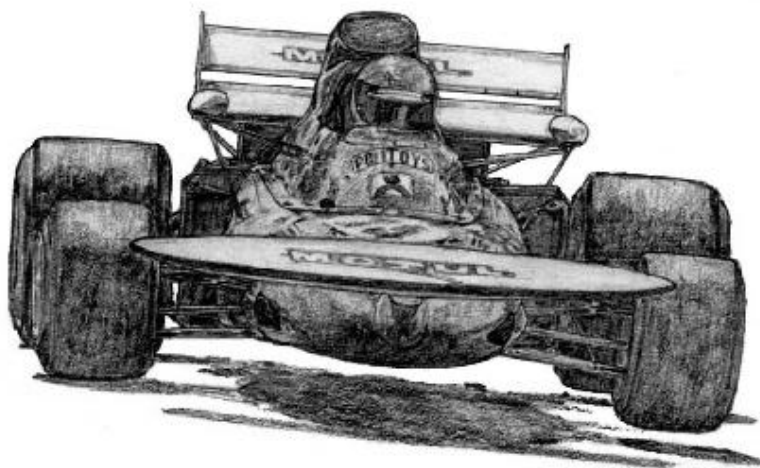
Lotus Honda 99T / Satoru Nakajima (1987)



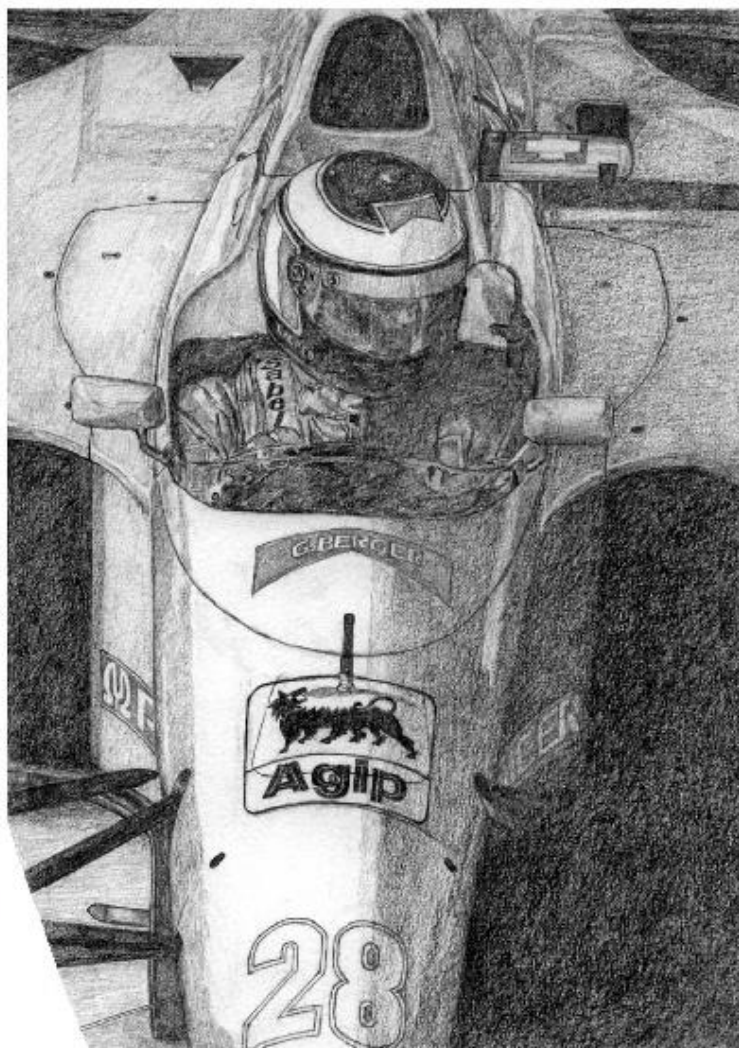
BRM P153 / Jackie Oliver (1970)



March Ford 711 / Henri Pescarolo (1971)



Ferrari F93A / Gerhard Berger (1993)



F-1の中の静寂

Williams Renault FW12C / Riccardo Patrese (1989)



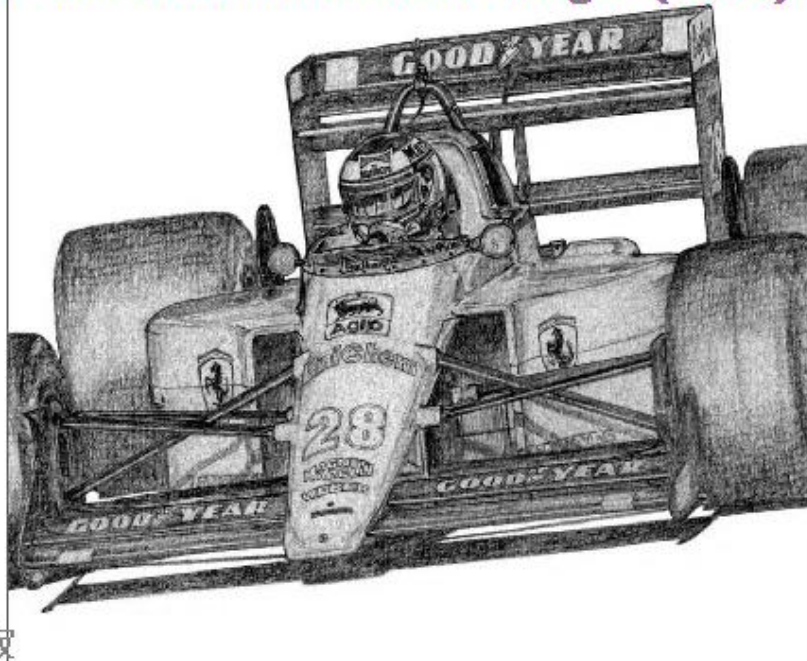
【ひとこと】

副題で「F-1の中の静寂」とあるように、時間的な停止した瞬間を描こうとしたものです。彩色も意識的にしていません。

ドライバーはリカルド・パトレーゼ。F-1で6勝。それよりも256戦、F-1レースに参戦した方が評価されるべきかもしれません。ウィリアムズはホンダに去られて1年間、ジャッドという非力なエンジンで戦っていましたが、1989年ルノーエンジンを手に入れ、復活の基礎作りとなった年です。

といってもまだまだ、当時のマクラーレン・ホンダには勝てず、最強となるのは後、3年ほど待つ必要がありました。

Ferrari 640 / Gerhard Berger (1989)



F-1の静寂

【ひとこと】

原図はエンジ色の紙に画いています。必然的に彩色はしていません。

この画も一度、1年以上、中断し、描きあげるのに2年近く、費やしています。レーサーを描いたタッチと車本体を描いたタッチはかなり変わっています。

ドライバーはゲルハルド・ベルガー。好きなレーサーの一人です。強いレーサーですが、マクラーレン時代、セナと比較され、評価を落としたところもあります。ただ、比較される相手が悪いといべきです。ベネトンの後にフェラーリに移籍、その後、マクラーレン、フェラーリと移っています。今のフェラーリと違って、混乱の多いフェラーリであり、再度、フェラーリに請われたというのはベルガーの手柄であり、特筆されるべきものです。

フェラーリ640はジョン・バーナードのデザイン。久方ぶりのV12気筒エンジン、そして最初のセミオートマティック車です。描いたのはそのテストカーであり、正確には640というべきものではないかもしれません。

Ayrton Senna

Adelung
Ayrton Senna
1st May 1994



【ひとこと】

描く側の気持ちも画に表れます。少し、生意気なセナと暗い表情のセナになりました。



説明するまでもなく、アイルトン・セナです。マクラーレン最強時代のセナとウィリアムズ時代のセナ。ウィリアムズ時代といっても1年にも満たない、そう、セナ最後の年です。

1994年、最強のマシンを手に入れたセナはワールドチャンピオン当確と思われました。しかし、開幕後、二連勝したのはシューマッハー。運命の3戦目のサンマリノGP。ポールポジションからスタートしたセナはカーブを直進。そのまま還らぬ人となりました。

追走していたシューマッハーは勝利。その年のワールドチャンピオンとなりました。セナからシューマッハー時代に移行した年です。

1994年はアディオン7 セナの年です。

Williams Honda FW09B / Nigel Mansell (1985)



McLaren MP4/2 TAG-Porsche / Alain Prost (1984)



McLaren MP4/2 TAG-Porsche / Niki Lauda (1983)



Benetton Ford 189 / Thierry Boutsen (1989)



【ひとこと】

ベネトン是非常にカラフルで彩色するときは楽しいです。

ドライバーはティエリー・ブーツェン。F-1で3勝していますが、評価が低く、一流の仲間入りは出来ませんでした。

1989年のベネトンの活躍で1990年にウィリアムズに移籍、1990年で2勝、1991年1勝。それでも、ウィリアムズから出され、中堅チームのリジェに移りましたが、以後、ほとんど活躍できずに数年後にF-1を去りました。

ベネトン189はロリー・バーンのデザイン。格好いい車です。サイドのエアークレックなどは性能的に不利としても格好がよければいいのではないかと、思っています。

Ferrari 156/85 / Stefan Johanson (1985)



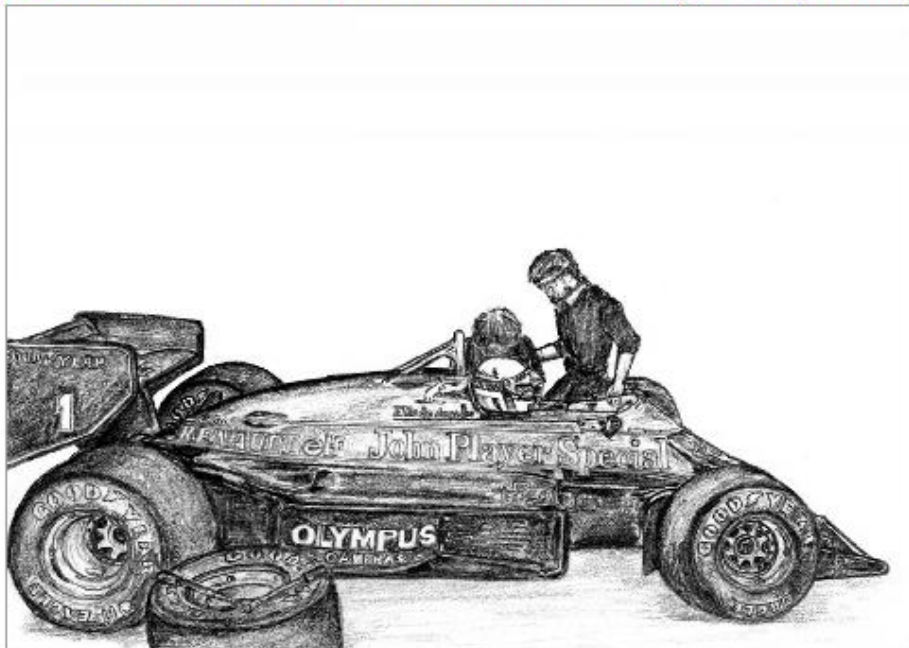
【ひとこと】

未完の作品です。中断、中断で作品を完成させるのに半年くらいかかってしまうのが常です。その間に、原本の写真が無くなってしまいました。

ドライバー、ステファン・ヨハンソン。日本のF-3000で活躍。その後、ホンダの2期目の復帰となるスピリット・ホンダでF-1へデビューしました。

F-1レース生活ではフェラーリ、マクラーレンの経験もあり、実力もあり、活躍もほとんどしたのですが、スポット的な取扱いされ、結局1勝もできずに終わりました。

Lotus Renault 97T / Elio de Angelis (1985)



【ひとこと】黒一色のロータスは画上げるのに苦労しました。

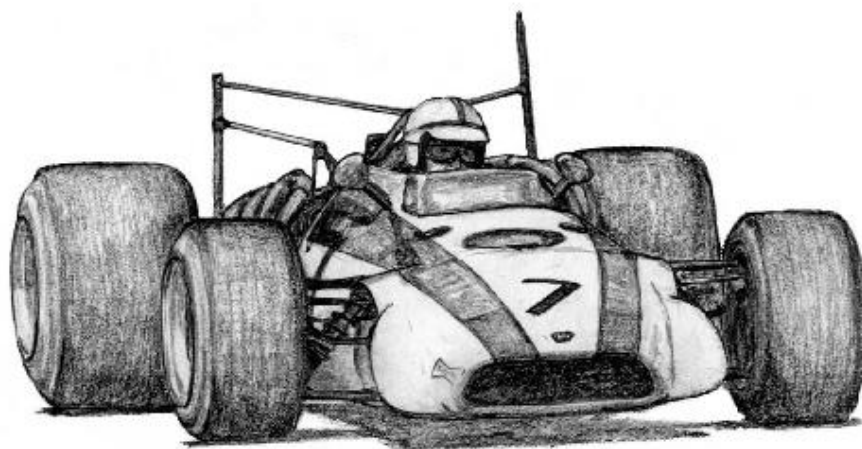
ドライバーはエリオ・デ・アンジェリス。イタリア人、貴族の家系です。才能豊かなレーサーでした。Lotusも前年のLotus 96Tより復活をとげ、彼もLotus時代に2回の勝利をあげています。

Lotus時代との表現のとおり、翌年の1986年にブラバムへ移籍しました。その理由は1985年、アイルトン・セナがLotusに移ってきたことにあります。並び立たず、Lotusを出ざるを得なかった、というのが事実です。

しかし、彼の悲劇は移籍後にあります。フランス、ポール・リカールでのテスト走行中、ウイングが脱落し、横転、火災事故となりました。車から脱出できず、また救出が遅れ、事故翌日、病院で亡くなりました。アイルトン・セナも8年後にレース中に事故死しました。

日本で人気の高かったF-1レーサー、ジャン・アレジは「エリオはアイドルだった」、とヘルメットカラーを模倣していました。

Honda RA301 / John Surtees (1968)



【ひとこと】

ぶんぶん個展ですが、上と下の画には25年以上の時間差があります。つまり下の画は回顧展になるものです。

うまい、へたでいえば確かに上の画だと思いますが、仕上げるのに10時間以上も必要としています。

その点、下の画はきっと1時間も要してはいないはずで、やはり勢いが大事だな、といつも比較するとします。

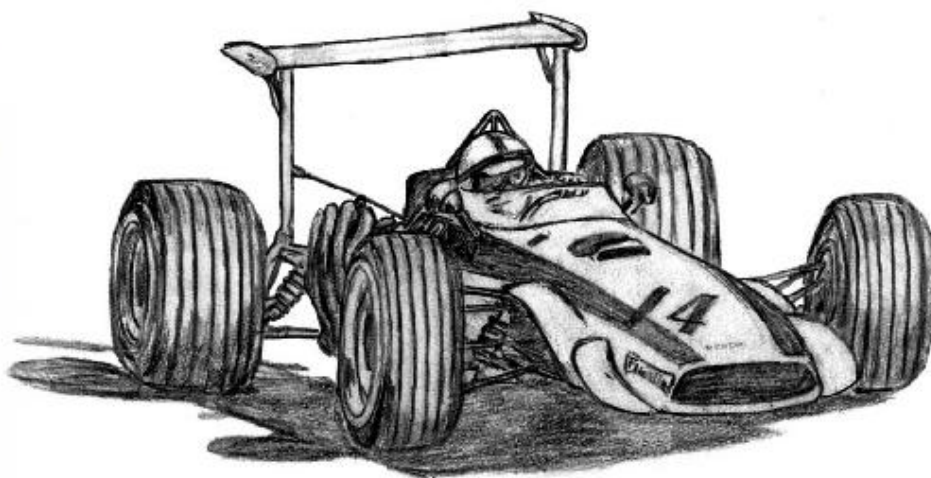
ホンダ第1期の最終年度のマシン。本気で年間タイトルを取りにいったマシンです。エンジン出力は当時のマシンの中で最大。しかし、重量が重いという難点がありました。

ウイングが本格的に登場した年でホンダも装着していますが、まだ強度的に問題があり、レース中に外れてしまったのが上の画です。それでも走れるのはまだまだ空力的には技術が進んでいない時代でした。

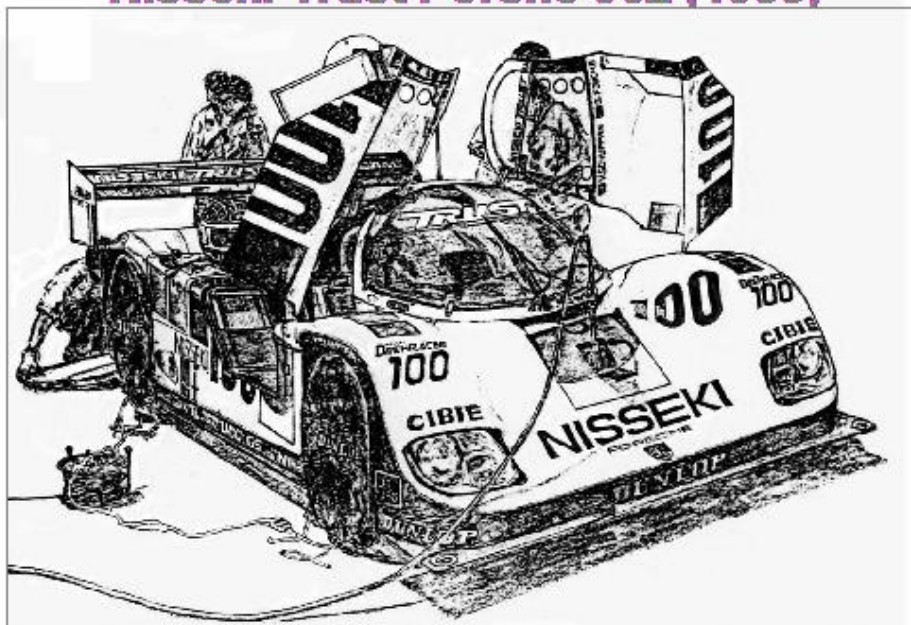
マシンは白地に赤二本。そして日の丸です。白に赤は日本のナショナルカラーでした。格好いいマシンでした。そしてドライバーは一番好きなジョン・サーティーズ。うまく速いドライバーです。

一番好きなマシンと一番好きなドライバーの組み合わせ。今よりも何倍もF-1が好きでした。でもテレビで放映されず、動くところが見られるのはニュースで年に10秒もなかった頃です。

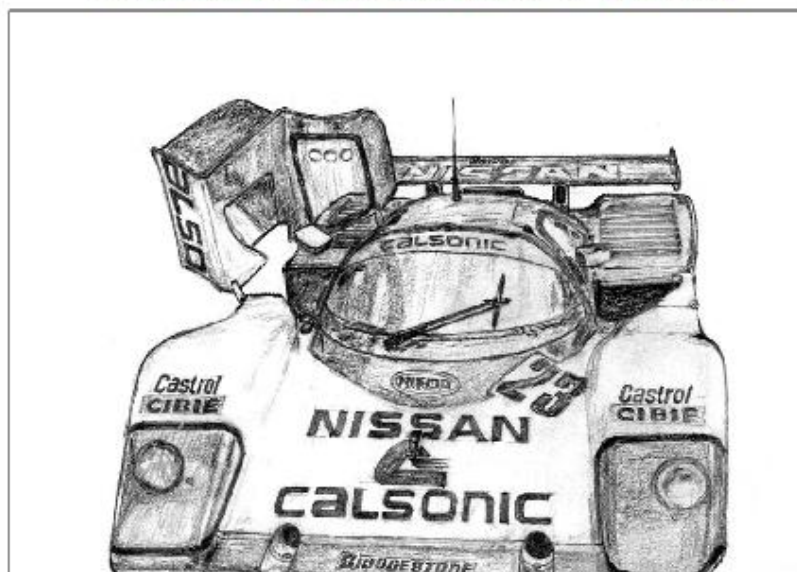
Honda RA301 / John Surtees (1968)



Nisseki Trust Porsche 962 (1988)

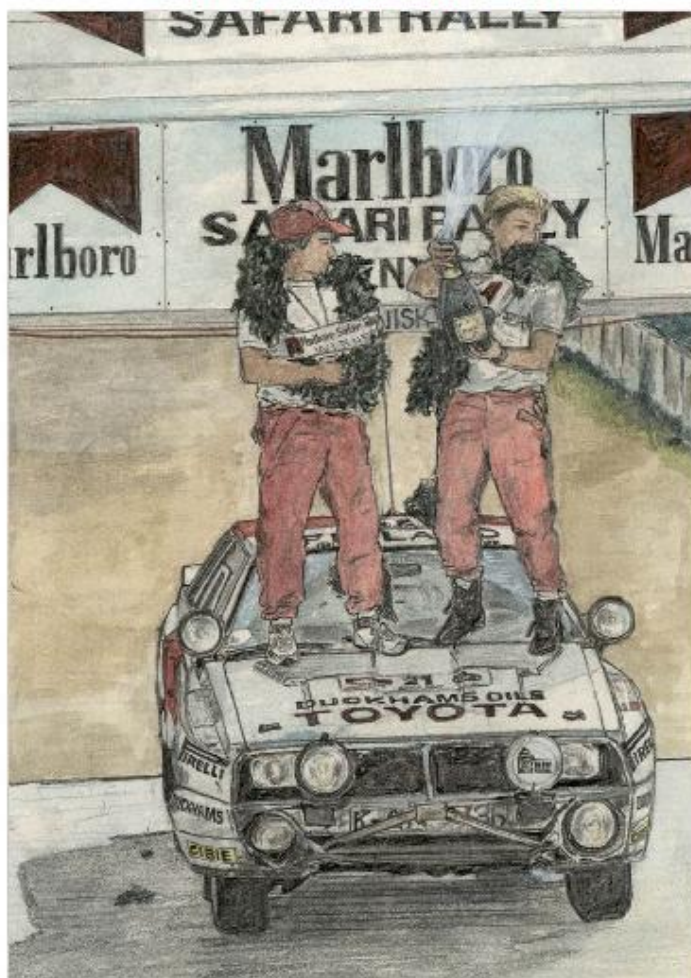


Calsonic Nissan R88C (1988)



©1988 Calsonic

Toyota Celica (1984)



1/1